

収穫終盤 農作物生育状況

十勝では収穫作業が終盤を迎えています。ビートの収穫は終盤に差し掛かり、長いもなどの根物野菜の掘り取り作業はピークとなりました。

十勝総合振興局発表の「農作物生育状況」によると、9月中旬は、高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、低気圧の影響により雨や曇りの日が多く、19日には管内各地でまとまった雨となりました。平均気温は平年並、降水量は多く、日照時間は平年並でした。下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多かったものの、それ以降は気圧の谷の影響や寒冷前線の通過により雨や曇りとなりました。平均気温は高く、降水量は少なく、日照時間は平年並でした。10月上旬は、2日は急速に発達した低気圧の影響で、8日から9日には台風23号から変わった温帯低気圧の影響で共に雨が降り強風も吹きましたが、高気圧に追われて晴れた日が多く、平均気温は平年並、降水量及び日照時間は多くなりました。また、中旬も高気圧に覆われて晴れた日が多く、その影響もあって、ほとんどの作物は平年並か平年より早い生育状況となっています。

収穫の終盤と共に疲労もピークとなり、交通事故・農作業事故が多発する傾向にあります。夕暮れが早まっており、視界不良となるため、無理な作業を避け、ゆとりをもって収穫作業を行うよう心掛けましょう。



女性部 1日バス研修

女性部の1日バス研修が8月18日、「大人の社会科見学」と題し釧路方面で開催されました。

参加者7名は大塚食品釧路工場、日本製紙・道新工場、釧路市立博物館の見学と、釧路プリンスホテルでの昼食を楽しみました。

大塚食品釧路工場の工場見学では、20分程の見学所要時間でオロナミンCの製造工程を見学する事ができました。また、道新工場見学では、日本製紙釧路工場と協力し、新聞用紙の製造から新聞の印刷・発送するまでを一度に見学する事ができました。新聞紙の製造から一連の流れを見学できるのは釧路工場のみで、部員の皆さんは「良い経験が出来たね」と話していました。釧路市立博物館では、釧路の自然や歴史・文化に触れて勉強してきました。



十勝農協連役員 海外農業視察研修

代表理事組合長 高橋 光秀

今回、8月26日より10日間の日程でアメリカ（ミネアポリス、サクラメント、シアトル）を視察して参りました。主にアメリカ中西部の酪農畑作の実態と現況を報告致します。

アメリカ酪農は日本と同様、育種改良を主とした家族経営と生乳生産拡大を目指す大型酪農経営に二分されており、10年前からゲノミック評価を活用した乳牛改良が進められていて、体型能力に於いて素晴らしいものがありレベルの高さを感じさせられました。また、牛群においても乳器の優れた牛が非常に多いのも印象的で、平均乳量1万4千k、日量40k以上と家族経営、大型経営を問わずこれだけの能力を見出している事はゲノミックによる育種改良の成果であると思われます。

アメリカ東部の牛乳は飲用乳として販売していますが、ミネソタでは主にチーズ・バターなどの加工乳が主体であり（飲用乳と加工乳の乳価の変動は無い）牛乳出荷は乳業会社と直接取引され、品質取引であるため会社によって価格の違いはあるものの、運賃の事を考えると近隣乳業会社へ出荷するのがほとんどという事でした。

現在の乳価は50円/k、昨年までは77円/kであった事を考えると非常に厳しい状況下にあるとの事です。本来であれば55～65円が妥当ですが、今後の牛乳消費の需給バランスが均衡しない限り乳価の高騰は望めないという事でした。年による大幅な乳価の変動を考えると、日本の様に指定団体制度による一元出荷多元販売の有利性を垣間見た気が

します。家族酪農から大規模酪農、そして企業酪農と経営形態が移行していく中で、厳しい経営環境の中で常に生産効率の改善を意識し、雇用マネージャーの管理下で経営理念に基づいたビジネスマネジメントを実施し、且つカウコンフォート（乳牛の快適性）を活用したその効率的な経営は「企業的感觉が備わっている者だけが生き残れる」という実力主義のアメリカ酪農の実態を見る事ができました。

一方畑作地帯ですが、アメリカ中西部の穀倉地帯は氷河で削られた広大平坦な土地にトウモロコシ、大豆が作付され、雄大な景色が延々と続き、点在するその農家施設は見るからにお金をかけていない合理的簡素なものであり、農場周辺の環境整備が行き届いたその景観は素晴らしく、アメリカ特有の農村の雰囲気漂わせていました。

アメリカでも農業を継ぐ青年が少なくなり、経営規模がどんどん拡大しているとの事であり、大規模な耕作面積でありながら0.8ha毎に土壌分析が行われ、そのデータを地図情報に入力しておき、GPSを搭載した自走式施肥機などを用いて効率的な無駄の無い施肥を行っています。また、1.6ha毎に養分充足状況を見ながら追肥を行うなど、生産性を含め環境に配慮していると同時に、ほとんどの農家で収量の増産、除草剤や殺虫剤の削減に向けたGMO（遺伝子組み換え作物）種子を使用との事でした（日本では食品の安全性に疑問が持たれているため、まだ使用されていませんが）。大規模な経営の中にあっても綿密でコスト意識の非常に高いその経営感覚はお手本とすべきであり、その収量増産に向けた高い生産技術の維持取得に、コンサルタントの活用、大学や民間研究機関との連携・関わりを重要視している点は日本でも見習うべき点であろうかと思います。

どのような時代になっても「経営感覚に秀でた者が農業者として生き残れるのであり、農業に誇りと自信を持っている」というそのアメリカ農業者の姿は開拓者精神を持った経営者としての姿勢と気概を感じました。改めてアメリカ農業と十勝農業とのスケールの違いを再認識させられた研修となりました。



クレイ・ビュー酪農場にて
(ミネアポリス郊外 大規模酪農場)



バン・ワーマーダム酪農場にて
サクラメント郊外 中規模経営



ブルース・ピーターソン農場にて
(ミネアポリス郊外 トウモロコシ農家)



セントラル・バレー・コープ農協組織にて
(ミネアポリス郊外 穀物販売農協組織)

第46回 十勝総合畜産共進会 2015 北海道ホルスタインナショナルショウ

平成27年8月25日に第46回十勝総合畜産共進会、乳牛の部が音更町の十勝農協連家畜共進会場で開催され、約210頭の乳牛がエントリーされました。当組合からは5頭の乳牛が最高位を目指し競い合うため会場入りしました。

審査員はアメリカホルスタイン協会公認審査員が務められ、十勝全域から集まった丹精込めて育てられた乳牛の体格や毛並、乳房の状態等を厳正に審査しました。



9月19・20日に安平町で開催された北海道ホルスタインナショナルショウでは、オフィシャル・ジャッジをカナダの酪農家が務め、ホルスタイン種約90頭、ジュニアカップ14頭、ジャージー種48頭を厳正に審査しました。

当農協からは「ノース・ジェラルデイン・スーパー・チャーミー」が出場し、乳牛の部で第7部2等7席の成績を残しました。

年金友の会 パークゴルフ大会

8月26日、年金友の会パークゴルフ大会が依田パークゴルフ場「俳句村コース」で開催され、33名の友の会会員が参加しました。

当日は爽やかな晴天に恵まれ、絶好のパークゴルフ日和となりました。高橋専務の挨拶で始まった今年のパークゴルフ大会は全18ホールを回るコースで、ホールインワンが男性

3名、女性1名出る熱戦でした。男性の部・女性の部ともに白熱したプレーが繰り広げられました。

その後は焼肉ガーデンへと場所を移し、和やかに懇親会が行われ、終始笑顔の絶えない1日でした。



第12回 ジェネティクス北海道 黒毛和種枝肉共励会

成 績

	優秀賞	優良賞
出 品 牛	りりか	さやか
性 別	雌	雌
等 級	A5	A5
枝 重	493kg	458kg
ロース 芯 積	88cm	76cm
バ ラ 厚	8.2cm	8.4cm
皮 脂 下 厚	1.6cm	2.5cm
歩 留 基 準 値	78.7	76.9
BMS No.	11	9



りりか

さやか



第12回、ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会が、10月3日に一般社団法人ジェネティクス北海道主催で北海道畜産公社において開催されました。北海道における黒毛和種雄牛後代検定事業の理解を一層深め、種雄牛の遺伝的特徴の把握と肥育技術の向上を図ることを目的として枝肉市場開催時に本共励会を併催し、当団繋養種雄牛の枝肉評価・展

示・褒賞を行っています。

一般の部からは84頭の出品があり、当農協からは「さやか」が優良賞、「りりか」が優秀賞を受賞しました。検定成績は互いに等級がA5と大健闘しました。



第38回 まくべつ産業まつり ～野菜即売会～

10月4日、幕別町百年記念ホール前広場にて第38回まくべつ産業まつりが幕別町観光物産協会主催で開催されました。幕別町の秋の一大イベントであり、多くの来場者で賑わいをみせていました。

J Aさつないは昨年同様、J A幕別町との合同出店で旬の野菜を販売する野菜即売会を行いました。メイクイン、とうや、たまねぎ、長ネギ、かぼちゃ、キャベツ、ハクサイ、ダイコン、ニンジン、そば粉など、季節を代表する野菜が販売されました。毎年野菜即売会を心待ちにしているお客様が多く、販売開始前から店頭には長蛇の列が出来ていました。10時の販売開始の合図と同時に次々と野菜は売れ、終了時間前にはほとんどの商品が完売となりました。「毎年この野菜即売会を楽しみにしています。」と両手いっぱい袋を下げているお客様や、沢山の野菜を地域配送するお客様が大勢いました。

ステージでは幕別文化倶楽部の豊穰太鼓、江陵高校吹奏楽部による演奏、かぼちゃ投げ大会、歌謡ショー、ものまねショーといったイベントも盛り沢山で終始活気溢れる産業まつりとなりました。



農村ホームステイ 大阪府立池田高等学校

今年6月に引き続き、「農村ホームステイ」事業が十勝管内の農家で行われ、大阪府立池田高等学校の2年生が農業の生産現場を体験しようと来勝し、幕別町へは1クラス38名の生徒がやってきました。

幕別町では、「まくべつ稔りの里」が主催で修学旅行生に農村での生活を体験し農業と日常生活のつながりを学んでもらう事を目的に平成24年度から行われています。

10月9日に忠類コミュニティセンターで行われた入村式の後、札幌地区の受入農家では3名の生徒が受入れられ、酪農体験として搾乳・仔牛の哺乳等、観光としては忠類のナウマン象記念館に行きました。今回は入退村式が午前中だった事もあり、例年と体験スケジュールを変える部分もあったと言
う農家さんもありました。退村式の生徒代表挨拶では、「食べ物を作る大変さと、食の有難みを学ぶ事ができ、充実した2日間でした。」と話していました。

